単元指導計画

３章３節 地方自治と私たち	単元学習前の生徒の意識 地方自治とは何をすることだろう。国の政治との違いは何だろう。高山市ではどのようなことが行われているのかな。自分たちと政治には距離があるように感じるな。自分にできることってよくいわれるけど、想像がつかないな。

第１時高山市の課題【知・技】
高山市の課題は誰が解決するのだろう
高山市には観光客が大勢訪れる魅力がある一方で。人口減少に伴った課題がたくさんある。解決・改善に向けて行政だけでなく、企業や地域の人々も関わっていることが分かった。
地域課題・地方公共団体・住民参加

地域の人々が安心して暮らすために、**私たちは**どのように地域課題に向き合っていくべきだろう

第２時地方自治とは　【知・技】
国より、高山市が決めた方がよいことは何だろう
地方公共団体によって課題や状況はことなるため、住民に身近なことやその地域の特色に関わることは、地方公共団体が地域の実態や住民の意見を踏まえて決めていくことが大切である。

民主主義の学校・住民自治・団体自治・地方分権

第３時地方自治体の意思決定【知・技】
高山市はどのように意思決定しているのだろう
地方自治では、市民が選んだ代表者が議会で話し合い、条例や予算を決めながら地域課題の解決を目指している。また、市民には選挙権や直接請求権があるから、地方自治体の政治に参加することができる。

首長・議会・条例・二元代表制

第４時高山市の財政【思・判・表】
高山市の財政にはどのような特徴があるのだろう
高山市は他の地方公共団体のように歳入の半分以上を依存財源に頼っているが、財政状況は健全といわれている。しかし、人口が減少し続ける中で税による歳入は増えないだろうから、適切な使い道を考えていかなければならない。前時で学習した意思決定が重要だと改めて考えた。

地方財政・自主財源・依存財源

第５時　高山市と観光【思・判・表】
観光を進めることは、高山市にとってどのような意味があるのだろう
高山市には年間で約４８０万人もの観光客が訪れている。高山で使っていくお金は地域の経済や地方公共団体の税金になるので、地域の産業や暮らしを支えているといえる。
オーバーツーリズムの問題もあるが、宿泊者数が増加するなかで、簡易宿泊施設も増加するなど、対応も進んでいる。

観光客数・宿泊客数・観光消費額・オーバーツーリズム

第６時本時　片原町まちづくり協定【思・判・表】
２割の人しか賛成してないのに、どうして片原町はまちづくり協定を結んだのだろう
片原町では、観光業が進み、伝統的な町並みや住民が静かに暮らせる生活を守る必要性を感じ、町内の独自性を重視して将来につながるまちづくりをしようと、繰り返し話し合い、合意を図った。関係する人の声を聞き、違う立場を調整しながら決める必要がある。実際に地域の問題に取り組む人は少ないかもしれないが、より良い生活のために動く人たちの存在が地域の未来を創っているのだと分かった。

合意形成・条例・多様な立場・地方自治

第７時パフォーマンス課題【思・判・表】
私の町内の課題と解決の進め方
これまでに学んだ地方自治の考え方を基に、多様な立場を踏まえながら、自分が住んでいる町内の課題を取り上げ、その課題の解決に向けて「誰が、誰と、どのように関わりながら解決していくこと」が大切か、自分の考えをまとめる

単元学習後の生徒の意識
地域の課題は、市役所が何とかするものだと思っていた。でも、地域のことを一番良く知っている住民が動くことも大切だと分かった。意見が違っても、いろいろな立場の人の考えを聞きながら、みんなが納得できるように進めていくことが大切だと思う。